



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 23, 93-95
Issue Date	1996-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26049
Type	other
File Information	23_P93-95.pdf



研 究 室 報

講 義 題 目 (1996年度)

独 語 学 概 論		清 水 誠
独文学史概説		石 原 次 郎
独 語 学	ゲルマン語学入門	清 水 誠
独 語 学	ドイツ語と北欧語 (2)	清 水 誠
独 語 学	慣用句研究とその周縁の諸問題	脇 阪 豊
独 語 学		Annedore Hänel
独 語 学		Annedore Hänel
独 文 学		Martin Moser
独 文 学		Martin Moser
独 文 学	トーマス・マンと20世紀ドイツ文学	鈴 木 純 一
独 文 学	作家の文学論と実践	山 田 貞 三
独 文 学	文学的解釈学の現代的課題	三 浦 國 泰
独 語 学 演 習	ドイツ語語彙論の諸問題	江 口 豊
独 語 学 演 習	コロケーション分析の理論と実際	室 井 禎 之
独 語 学 演 習	ドイツ語歴史統語論の諸問題	清 水 誠
独 語 学 演 習		Annedore Hänel
独 語 学 演 習	"Das moderne Deutschland" – ein landeskundliches Seminar	Annedore Hänel
独 語 学 演 習	Sprachwissenschaftliche Grundfragen	Annedore Hänel
独 語 学 演 習	Ausgewählte Probleme der Grammatik der deutschen Gegenwartssprache	Annedore Hänel
独 文 学 演 習	現代ドイツ文学の諸相	山 田 貞 三
独 文 学 演 習	ARS POETICA	山 田 貞 三
独 文 学 演 習	文学のアスペクト特性	石 原 次 郎
独 文 学 演 習	Aufschreibesysteme	石 原 次 郎

研究室行事記録

◎1996年2月16日に北海道大学文学部204号室において1995年度卒業論文・修士論文発表会が開かれた。

〈留学関係〉

◎1996年8月に林 馨子氏がミュンヘン大学から留学を終え帰国した。

◎1996年8月に前原真吾氏がミュンヘン大学へ留学のため出発した。

☆1996年6月22日に年報の総会が行われ、会長選出、幹事選出等が行われた。

1995年度 論文 題目

卒業論文

阿部 和夫：パウル・ツェラーンの詩とその理解

今井 恵：現代ドイツ語における外来語の使用について

羽柴 美緒：ゲオルグ・ビュヒナー “Woyzeck” について

修士論文

岡田 麻子：パッハマン『ウンディーネは行く』における解釈の問題

前原 真吾：ベルリン自然主義文学運動 1880-1890

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
 - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。

本会に賛助会員をおく。

